

# 人間科学部・社会学科

## 代表3人が卒業論文を発表

### オンラインで開催

人間科学部社会学科の代表論文発表会が1月29日、オンラインで開催された。4年次生3人が卒業論文を発表し、後輩や大学院生が聴講した。社会学科では13のゼミごとに代表論文を選び、その中からさらに文化系、生活系、地域系の三分野の代表論文を選出する。今年度の発表者は、君塚仁美さん(秋吉美

都ゼミ)、増田美咲さん(駒崎道ゼミ)、黒宮心愛さん(鶴理恵子ゼミ)。文化系代表の君塚さんは労働者の就労意識に関する調査を分析。高度経済成長期には多かった「会社人間」といわれる、組織に強く帰属意識を持つ人々のパブリック領域の意識の変化を、情緒的関与をキーワードに分析し、「社会貢献活動や仕事のタイプ、人間関係など価値合理的な要因が影響する」と結論づけた。生活系代表の増田さんは、ステップファミリーと児童虐待の関連を考察し、子どもの権利侵害について検討した。親の再婚などで生じる血縁関係のないステップファミリーの虐待死事件を分析。血縁関係がないから虐待が発生するのではなく、「ステップファミリー」についての知識や支援方法

の認識が当事者や社会に不足していることが要因」と語った。地域系代表の黒宮さんは、同士のつながりを大切にしながら、自然環境をよみがえらせるための工夫を取り入れた暮らしを目指して形成されたコミュニティである「エコビレッジ」。国内2カ所でフィールドワークを行い、「個々人の価値観を大切にしながら、関係性の豊かな調和のとれたコミュニティを形成している」と指摘した。

### エコビレッジについて報告する黒宮さん



なかりを大切にしながら、自然環境をよみがえらせるための工夫を取り入れた暮らしを目指して形成されたコミュニティである「エコビレッジ」。国内2カ所でフィールドワークを行い、「個々人の価値観を大切にしながら、関係性の豊かな調和のとれたコミュニティを形成している」と指摘した。

## 6人に学位

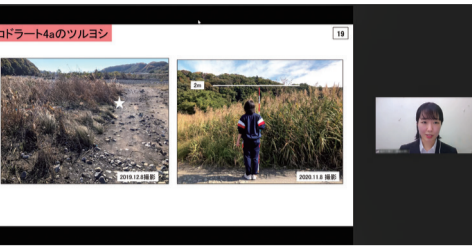
### 博士後期課程

2020年度博士後期課程を修了した6人に博士の学位が授与された。氏名と専攻・指導教員は次の通り。(総計2人は2面に掲載。敬称略。※は学位規程第14条第1項ただし書きによる学位取得者)

- ▽朝倉健男(経済学研究科経済学・田中隆之)
- ▽二瓶正登(文学研究科心理学・澤幸祐)
- ▽堀哲郎(文学研究科歴史学・土生田純之)
- ▽神谷渉(商学研究科商学・渡辺達朗)

## 全国地理学専攻学生卒業論文発表大会

### 文学部・環境地理学科 植木さん・田島さんが報告



現地調査の結果を説明する植木さん

2020年度全国地理学専攻学生卒業論文発表大会(日本地理教育学会主催)が3月15日、オンラインで行われ、全国の大学の地理学専攻の学生のうち、優秀な卒業論文を作成した27大学の52人が発表した。本学からは文学部環境地理学科4年次の植木千華子さん、田島莉子さんがこれまでの調査・研究の成果を報告した。

019年19号台風による洪水後の植生変遷(指導・高岡貞夫教授)。洪水後、植生が回復する過程を1年にわたって現地調査。場所による植生の違い、河川固有種に与えた影響などを考察した。田島さんの題目は「川越における商店街の店舗更新からみる中心商業地の存続要因」(指導・山本充教授)。埼玉県川越市にある五つの商店街で、2000年から20年間の

業種構成の変化などをグラフ化。観光客向け、住宅化など、商店街ごとに異なる変化を述べている点などが、各商店街の存続につながっていると論じた。

【大学対抗「健康」×「マーケティング」コンペティション(ヘイトキ)部門大賞】大崎恒次ゼミ(稲垣元、矢島杏優、川角純奈、角橋克海、成田晃祐、菊島彩佳(以上3))

【専修大学SDG Sチャレンジプログラム(アイデアコンテスト)学長賞】奥瀬喜之ゼミ(大西航平、伊藤綾、塩澤千佳)

【専修大学SDG Sチャレンジプログラム(アイデアコンテスト)学長賞】経営学部の学部長表彰では8人が優秀賞を受賞した。受賞者は次の通り。(敬称略、カッコ内は学号)

【ローラースケート部】河田幸介(3)

【応用情報技術者試験合格】中山知耶(3)▽小林弘和(4)

## 還暦過ぎて学び直し

### 法・木幡さん 晴れて卒業



木幡博己さん(法4)は1979年の中退から約40年を経て3年次に復籍し、この春、晴れて学びを終えた。還暦を過ぎたのキャンパスライフを「大いに刺激を受けた日々」と振り返る。

日高理事長に笑顔で卒業を報告した木幡さん(右)

校友会活動で仲間から勧められ、また日高義博理事長の激励もあり、2019年に復籍。岡田好史ゼミ(刑法)に所属し、毎日欠かさず大学に通った。4年次は一転、福島県の自宅で、孫と過ごしながらオンライン授業に取り組んだ。木幡さんは「卒業後は専修人として、地域や校友会の活動に取り組みしていきたい」と晴れやかに笑う。

## ハングリー精神で挑戦

### プロ格闘家としてデビュー



1R・KOでプロ初勝利を果たした梅村さん=2020年10月24日

その年の暮れのアマチュア全日本大会。強敵とのトーナメント戦で満身創痍になりながらも見事優勝を果たした。その後、プロの団体からオフアがあり、晴れてプロ格闘家としてデビューした。プロでの対戦成績は1勝1敗1引き分け。武者修行をきっかけにアジアの人々の生活を豊かにしたいとの夢を持つようになり、卒業後は社会インフラを担う企業で働く。仕事とキックボクサーの両立はたやすくはないと自覚している。だが、「どんな過酷な状況でも、ハングリー精神で挑んでいきたい」と拳に力を込める。

## プロ格闘家としてデビュー

### 夢に向かって

### 社会に羽ばたく4年次生

## ビジネスコンテストで入賞

### 小山田さん(商4)



かながわ学生ビジネスプランコンテストで企業賞を受賞した小山田さん=2020年2月21日

スコアコンテストへの出場が決まった。鳳賞受賞のアイデアを深化させて挑むつもりだったが、大会前の個別相談で痛烈なダメ出しを受ける。本質が見えていないとの指摘を受け、小山田さんはサービス対象である子どもと実際に接してみようと、親交のある家庭で「一日ママ」を体験することに。そこで「家事育児の大変さ、そしてそれが正当に評価されないこと」に気づく。大会直前、サービスの軸を母親に交換日記サービスで、子どもをほめて自己肯定感を向上させるアイデアだ。その後、神奈川県などが主催するビジネス

現在もさらなる試行錯誤を繰り返している。小山田さんは高校3年生のときに幼なじみを亡くしている。悲しみと同時に「人生は短い」と実感し、やれることは何でもやろうと決めた。大学入学後は英会話サークルの設立や、海外バックパッカーなど積極的に活動。挑戦するたびに自信がわいた。卒業後はITベンチャーに就職し、実務を経験しながら経営などを学び、いずれ起業を目指す。「いいビジネスや成果物を作りだすことで、自分の自己肯定感を高めたい。これからの無理なことこそ挑戦していきたい」と前を向く。

## 仕事でだれかを幸せに

「夢は日本の自己肯定感を上昇させること」と語る小山田興雅さん(商4)は、在学中、学内外のビジネスコンテストやインターンシップに数多く参加し、アイデアを育ててきた。「利用者」に寄り添ったビジネスを生み出し、だれかを幸せにしたいと誓う。2019年度の専大ベンチ

「夢は日本の自己肯定感を上昇させること」と語る小山田興雅さん(商4)は、在学中、学内外のビジネスコンテストやインターンシップに数多く参加し、アイデアを育ててきた。「利用者」に寄り添ったビジネスを生み出し、だれかを幸せにしたいと誓う。2019年度の専大ベンチ